



2010/04/26

TWS shibuya

## サイコアナリシス—現代オーストリアの眼差し

フロイト、ヴィトゲンシュタインを生んだオーストリア  
肉体と都市に潜む闇と狂気を見つめて

PSYCHOANALYSIS - Gazes on Photo and Video Art from Austria

2010/5/29 土 - 8/1 日 トーキョーワンダーサイト渋谷

### 参加アーティスト

ビッター / ヴェーバー | Bitter / Weber

マリア・ハーネンカンフ | Maria Hahnenkamp

アグライア・コンラッド | Aglaia Konrad

ドリット・マーグライター | Dorit Margreiter

ウルスラ・マアイヤー | Ursula Mayer

マルクス・シンヴァルド | Markus Schinwald

アンドレア・ヴィッツマン | Andrea Witzmann



マルクス・シンヴァルド | Markus Schinwald  
*Ten In Love*, 2006, 35 mm film on DVD, color, sound (4 min 37 sec)  
Courtesy of the artist and of Georg Kargl Fine Arts, Vienna





## 企画概要

### 「サイコアナリシス - 現代オーストリアの眼差し」

ハプスブルグ朝が中央ヨーロッパにオーストリア帝国を築き、その爛熟した宮廷文化は、ウィーンを中心に都市文化の極限に達した。そしてその退廃とともに、フロイトとヴィトゲンシュタインに代表される人間の肉体と精神の深みに向かう新たな問いかけが生み出された。フロイトの精神分析では、患者の自由連想や空想や夢を言語化し、分析者は無意識の葛藤を定式化して解釈する。現代アーティストはこれを映像という言葉に置き換える。個人と身体と都市への無意識の葛藤が映像化され、個人と身体とのサイコジカルな関係、そしてパブリックスペースや建築空間におけるむき出しの身体が、写真とビデオというメディアの中に反響する。その眼差しは、肉体と都市に潜む闇と狂気に向けられ、内なる世界と外界との境界線を溶かし、私たちの生な人間の姿と欲望を描き出す。そしてそれは私たちを心の底から強く揺さぶり始める。

## 開催概要

- 会期 2010年5月29日(土)～2010年8月1日(日)
- 会場 トーキョーワンダーサイト渋谷
- 開館時間 11:00～19:00(最終入場は30分前まで)
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌火曜日)
- 入場料 無料
- イベント 参加アーティストとキュレーター(古屋誠一、ヴァルター・サイデル、家村佳代子/TWS事業課長)による  
オープニング・ギャラリートーク 2010年5月29日(土) 16:00～18:00  
\*その他シンポジウムシリーズも予定しております。
- レセプション 2010年5月29日(土) 18:00～20:00
- 参加者滞在日程(予定) 古屋誠一、ヴァルター・サイデル:5月14日～5月31日、ビッター/ヴェーバー:4月19日～5月31日  
マルクス・シンヴァルト:5月20日～5月31日(予定)  
\*スタジオでのインタビューなど、上記期間中に取材を承ります。広報担当へご連絡ください。
- 主催 公益財団法人東京都歴史文化財団 トーキョーワンダーサイト
- 共催 オーストリア教育芸術文化省
- 後援 オーストリア文化フォーラム
- 巡回 熊本市現代美術館 9月18日(土)～11月28日(日)(予定)

## 会場案内

トーキョーワンダーサイト渋谷

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-19-8

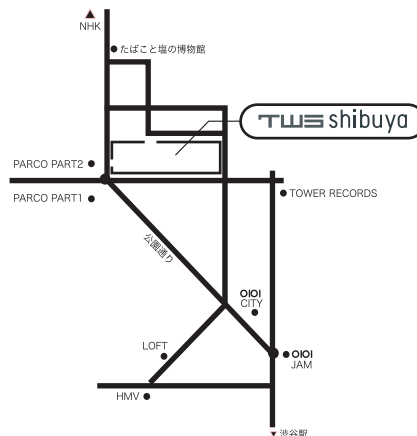
TEL: 03-3463-0603

FAX: 03-3463-0605

■交通案内: 渋谷駅(JR山手・埼京線・湘南新宿ライン/東急東横・田園都市線/

京王井の頭線/東京メトロ銀座・半蔵門・副都心線)より徒歩8分

駐車場はございませんので、お車でのご来館はご遠慮下さい。



## 参加アーティスト紹介

## ビッター / ヴェーバー | Bitter / Weber

1994年からウィーンとバンクーバーをベースに活動しているザビーネ・ビッターとヘルムト・ヴェーバーのデュオ。主に都市、建築や空間表現についてのプロジェクトを制作。2004年からは「Urban Subjects US」(www.lot.at)のメンバーとして活動中。

## 主な展覧会

- 2010 「Learning from」、Western Front、カナダ (個展)
- 2009 「Bitter/Weber: Right, to the City」、リンツ州ギャラリー、オーストリア (個展)
- 2009 「ウィーンアートフェア」、オーストリア
- 2006 「Live Like This!」、Galerie//Plattform//、ドイツ
- 2005 「Transformative Urbanism」、Galeria Noua、ルーマニア

## 出展作品について

サスキア・サッセン、レム・クールハース、マイク・デーヴィス、ヴァルター・グロピウスの4人の建築家のテキストを、問題を多く含んだバイエル都市拡大プロジェクトの航空写真に刻みつけている。



image.source  
2000, 4 parts, A0 prints on paper, 133 x 93 cm  
Courtesy of Photo Collection of the Austrian State, permanent loan to the Austrian Gallery of Photography at the Museum der Moderne, Salzburg

## マリア・ハーネンカンフ | Maria Hahnenkamp

1959年アイゼンシュタッド生まれ。現在、ウィーンで活動中。2008年 Visual Art Award of the City of Vienna 受賞。

## 主な展覧会

- 2008 「Junge Porträtgalerie」、Burgtheater、オーストリア
- 2007 「Sechs Plakate im Stadtraum Innsbruck」、Galerie im Taxispalais、オーストリア (個展)
- 2007 Galerie Krobath、オーストリア
- 2005 Galerie Praz-Delavallade、フランス (個展)
- 2002 「Transparency」、MAK Gallery、オーストリア (個展)

## 出展作品について

制作は、精神分析のラジオを聞きながら行うと話すハーネンカンフは、オーストリア国立装飾美術館での個展で注目をあびた。歴史的建築物の装飾模様などを、衣類、布、刺繍などの伝統的な手工芸により、動く身体にジェンダーに関するテキストとともに縫いこむ写真と映像作品。



Untitled. (from the series "Dress")  
2010, 6 parts, Pigment-print on Hahnemuehle Baryta paper, 83 x 108 cm  
Courtesy of the artist and of Krobath, Vienna/Berlin

## アグラリア・コンラッド | Aglaia Konrad

ザルツブルグ生まれ。オランダ・Jan van Eyck Akademie 卒業後、2008年まで研究者として同校在籍。現在はベルギー・Hoogeschool Sint Lukasの講師。

## 主な展覧会

- 2010 ナント芸術大学、フランス (個展)
- 2005 「Open City」、Architecture and Urbanistic Biennale、中国
- 2001 「Atlas alias Alphabet」、ウィーン建築センター、オーストリア (個展)
- 2000 上海ビエンナーレ、中国
- 1995 「Aglaia Konrad」、Stedelijk Museum、オランダ (個展)

## 出展作品について

オーストリアの彫刻家フリッツ・ヴォトルーバの模型をもとに建設された152個のコンクリートブロックによる抽象彫刻にみえる教会の内部の無声ビデオは、フロイトの理論の事象の反復から生じる不気味な瞬間の発生と静寂の濃密さ、黙想と異化とを同時に誘発する。それはカメラがエレメントを文字通り精査することによる。



Concrete & Samples | Wotruba Wien, 2009, 16mm film on DVD, color, silent (15 min 44 sec)  
Courtesy of the artist

## ドリット・マーズグライター | Dorit Margreiter

1967年生まれ。現在、ウィーンを拠点に活動。1992年にウィーン工業大学を卒業後、95年から96年にかけて東京にてアーティスト・イン・レジデンスとして滞在。その後もベルリン、LAに滞在。99年から04年にかけてはオーストリアを中心に数々のアワードを受賞。

## 主な展覧会

- 2009 「Locus Remix: Dorit Margreiter」、MAK Center for Art and Architecture、アメリカ合衆国 (個展)
- 2009 第53回ベネチア・ビエンナーレ オーストリア館、イタリア
- 2008 第11回カイロ・ビエンナーレ、エジプト
- 2006 「Dark Places」、サンタモニカ美術館、アメリカ合衆国
- 2004 「Statements」、Art Basel/ Miami Beach, Gallery Krobath、アメリカ合衆国 (個展)

## 出展作品について

「ハビリオン」は、ヨーゼフ・ホフマンによって設計されたベネチアのジャルディーニのオーストリア館で撮影され、昨年度のヴェネチア・ビエンナーレの際にその館内で上映された。セッティングにおいて建物の内部と外部とを視覚的に溶け込ませ建物のプロトタイプの展覧会場としての地位を復元している。



Concrete & Samples | Wotruba Wien, 2009, 16mm film on DVD, color, silent (15 min 44 sec)  
Courtesy of the artist

**ウルスラ・マイヤー | Ursula Mayer**

オーストリア生まれ。現在、ロンドンを拠点に活動。1996年ウィーン美術学校卒業。2005年にロンドン大学ゴールドスミスより現代美術修士課程修了。

**主な展覧会**

2009 「Heaven」、アテネ・ビエンナーレ、ギリシャ  
2009 「Ursula Mayer」、Whitechapel Art Gallery、イギリス(個展)  
2007 「Venetian, Atmospheric」、第52回ベネツィア・ビエンナーレ、イタリア  
2006 「Facts and Fictions」、RCM美術館、中国  
2004 ベルリン・ビエンナーレ、ドイツ

**出展作品について**

「堕ちた皇帝」の三つの異なるアングルは、中央は鏡として、その左右は自己と他者を映し出す。ウィーンの第二次世界大戦時の対空砲塔とホテル・インペリアル壮麗な廊下の場面が交互に現れ、塔の屋上そして地下室にぶら下げられたブランコには、放火魔を演じるマイヤーが映し出され、女性の表現の歪み、女性の他者の問題が浮かび上がる。



*Goldflames Out In The Sky*  
2002, Still from the DVD, color, sound, (3 min 30 sec)  
Courtesy of the artist

**マルクス・シンヴァルド | Markus Schinwald**

1973年ザルツブルグ生まれ。現在、ウィーンとロサンゼルスを中心に活動。

**主な展覧会**

2010 「Locus Solus」、Yvon Lambert、アメリカ合衆国(個展)  
2009 「Höhepunkte der Kölner Kunstfilmbiennale in Berlin」、KW Institute for Contemporary Art、ドイツ  
2009 「Best of Austria」、レントス美術館、オーストリア  
2007 「Timer 01」、ミラノ・トリエンナーレ、イタリア  
2006 「Videozone 3」、国際ビデオビエンナーレ、イスラエル

**出展作品について**

ベルリン大学にて心理学を学んだシンバルトは、古い絵画やプリントのポートレートにマスクや眼帯を描き足したり、家具や身体から切り離された足のオブジェを含めた大掛かりなヴィデオイン

スタレーションを行い、特にプレゲンツ美術館で行われた大規模な展示とパフォーマンスは、観客含めて映像作品化され、大変注目されている。「テン・イン・ラヴ」においては、建築家ギュンター・ドメニヒとアイルフリート・フートの設計によるグラーツの修道院が舞台となっている。



*Ten In Love*  
2006, 35 mm film on DVD, color, sound (4 min 37 sec)  
Courtesy of the artist and of Georg Kargl Fine Arts, Vienna

**アンドレア・ヴィッツマン | Andrea Witzman**

1970年オーストリア・ウィーン生まれ。ウィーン工科大学建築科卒業後、ウィーン美術アカデミーで学ぶ。2004年「Cité International des Arts Paris」奨学金また2005年「State Scholarship for Photography」受給。現在は主にウィーンで活動中。

**主な展覧会**

2008 「Sotheby's Artist Quarterly」、Sotheby's Vienna、オーストリア(個展)  
2007 「21 positions」、オーストリア文化フォーラム、アメリカ合衆国  
2006 「I Can Get No」、Layr Wuestenhagen Contemporary、オーストリア(個展)  
2005 「Art Rotterdam 05」、Layr Wuestenhagen Contemporary、オーストリア  
2004 Cité Internationale des Arts、フランス

**出展作品について**

白を支配色とする一連の作品は、精神病棟を思わせる。今回は、モルモットとブルガリアの車がそれぞれの所有者との間にある精神分析的な諸次元を暴露しようとしている。



*Otto & Ottokar*, 2008, C-Prints, 100 x 134 cm each  
Courtesy of the artist and of Layr Wuestenhagen, Vienna

**キュレーター紹介****ヴァルター・サイデル | Walter Seidl**

1973年オーストリア・グラーツ生まれ。現在はウィーンを拠点とする。オーストリア、フランス、アメリカにて現代文化学博士号取得。キュレーター、評論家、アーティストとして活動中。「カメラ・オーストリア」をはじめ様々な世界的に有名な雑誌に執筆。キュレーターとしてはオーストリア、ブルガリア、ドイツ、香港、モンテネグロ、ルーマニア、セルビア、スロバキア、スロベニア、南アフリカでプロジェクトを発信。2004年からErste Groupのコレクションを担当。

**古屋誠一 | Seiichi Furuya**

1950年静岡県生まれ。東京写真短期大学(現・東京工芸大学)を卒業後、1973年渡欧、現在グラーツを拠点とする。写真家としての活動と同時に芸術家組織「カメラ・オーストリア」の設立(1975年)に参加。以来、写真展、シンポジウム、写真季刊誌発行などを通して、日本の写真家のヨーロッパ紹介に努める。今年5月に、東京都写真美術館とヴァンヅ彫刻庭園美術館、9月に熊本市現代美術館で個展を開催する。